

2022年度 活動報告

I. 運営に関する事項

I. 総会の開催

第21回定時総会

2022年5月29日（日）13:00～ 対面及びオンライン会議システムを利用しての実施

2021年度活動報告の承認を求める件

2021年度決算報告の承認を求める件

役員の報酬等に関する規定の承認を求める件

2022年度活動計画（案）の承認を求める件

2022年度活動予算案（案）の承認を求める件

2022年度役員（案）の承認を求める件

2. 理事会の開催

2022年4月3日（日）15:30～16:30

2021年度活動報告、収支状況についての報告

2022年度活動案、2022年度予算案、2022年役員案などについて協議

2022年5月22日（日）14:00～16:00

総会議事について協議

2023年度以降のむすびつくば事業について協議

3. 合同委員会（むすびつくば運営協議会・理事会）の開催

2022年4月3日（日）16:30～18:00

2021年度むすびつくば事業活動報告、収支状況についての報告

2022年度むすびつくば事業活動案、予算案、役員案などについて協議

2022年10月29日（土）18:00～20:00

2022年度前期 むすびつくば事業活動報告

協働に関する検証報告書 と 自己評価について報告・協議

2023年度むすびつくば事業計画案について提案・協議 他

2023年3月26日（日）18:00～20:00

2022年度活動状況報告

2023年度活動案、2024年度以降のむすびつくば事業について協議

Ⅱ. 事業に関する事項

Ⅰ. むすびつくば運営事業

2022 年度目標と成果

- 体験的な学びの機会を充実させるとともに、異なる個性を尊重し合う雰囲気づくりに努めることで、子どもたちが自身を肯定的に受け入れ、前を向いて歩む意欲を育む。

【成果】

- ・ 筑波山登山の前には、算数の「遊び勉強」の中でケーブルカー料金を計算したり、理科では花崗岩、斑れい岩を双眼実体顕微鏡で観察したりするなどして、学びの幅を広げることができた。
- ・ 子どもたち自身が企画、実施をする体験ができるよう「ハロウィンパーティ」「クリスマス会」「お楽しみ会」を行った。中学生が小学生のことを考え、参加しやすいレクリエーションを提案するなどした。

- 対面支援を望まない子らにオンラインでの学習支援を行うなど、一人ひとりに異なる学び（LD：Learning Differences）、それぞれのニーズに応じた学びの機会の充実にも努める。

【成果】

- ・ LD に対しては、ICT 機器を活用するなどして苦手を軽減できた。
- ・ 最初は好きな教科から短時間で、また、書くことが苦手な子には対話を通じて表現力を伸ばすなど得意の伸長に努めた結果、学びの意欲を回復し、苦手教科にも挑戦を始める姿が見られた。

- 地域で活動する個人や団体と連携し、地理的理由などから昼間のむすびつくばに通所できない子やむすびつくばを巣立った高校生を対象とした「放課後居場所支援事業」を展開する。また、外国籍の児童生徒への「日本語支援事業」の実施に協力する。

【成果】

- ・ 「放課後居場所支援事業」は、38 回開催し、延べ 76 名の参加があった。参加している子どもたちには、少人数のフリースペースでスタッフがよく話を聞く中で自分を取り戻し、エネルギーを溜める様子が見られた。
- ・ 「日本語支援事業」は、勉強会 76 回の開催、述べ 674 人 12 カ国の子どもの参加があった。

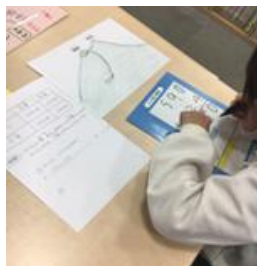
- 協力団体とともに、保護者が互いの思いを語り合い、経験を共有し、交流を深める場としての茶会形式の親の会を充実させ、保護者の声がより反映されるように努める。

【成果】

- ・ ピア・カウンセリングを兼ねた「親の会」を全 11 回開催し、毎回 2～6 名の参加があった。回を追うごとに参加人数も増え、より良い関係性が構築されていた。
- ・ 2023 年度からは、「親カフェ」と名前を改めて継続することとなった。



国語の授業



遊び勉強



サークルタイム



親の会

- 不登校児童生徒の支援事業においては、保護者や学校、教育局との連携、協働のあり方を協議、検討する。

【成果】

- ・ 常磐大学人間科学部教育学科助教 小山田建太先生の協力も得て、当事者ヒアリングも含めた自己評価報告書を作成し教育局に提出した。つくば市のホームページでも公開されている。
- ・ 「不登校に関する児童生徒支援検討会議」には一度だけ参加を認められた。事業者と教育委員の懇談の機会も一度あったが、事業の目的について十分に協議する機会はなかった。つくば市の役割について仕様書では、入所手続きに関するものの他には「教育相談センターとの連絡会議を原則として月1回開催する」とある程度で、役割分担についても十分に協議することはできなかった。ただし学校側への声かけや記録の送付などを学び推進課が担ったことで、学校連携は深まった。また、個々の事例に関しても、学び推進課担当者と事業者との間で連携して当たることができた。
- ・ 同検討会議が公開した「令和2年度、令和3年度不登校児童生徒学習支援事業協働実施に関する検証報告書」では「通所者及び保護者の満足度は高く、リヴォルヴ学校教育研究所は通所者の期待に応えられるような学習支援活動を提供していた」「子どもの目線でその話に耳を傾け、寄り添いながら自信を失っている子どもに安心感を与え、信頼関係を築けていた」などと記載されているが、それがなぜプロポーザルでは落選となった理由については説明がないままとなっている。
- ・ 課題は多く残されているが、教育局担当者はたびたび教室を訪れ活動の様子を自身の目で見ただけでなく、保護者会にも参加するなどした。市長、教育長も教室に足を運び、子どもたちと直接話す機会もあった。厳しい環境下であったことを思えば、意思の疎通は十分に図られていたとも感じている。
- ・ おすびつくばへの出席が通知表に記載されていないという問い合わせが数件あった。また、テストの受け方や子どもたちの評価について、学校によって考え方の違いがあり、これについても保護者から質問があった。
- ・ スタッフの中からは、「目的が共有されていない中で、誰がどのように事業を評価するのか」「委託事業ということであったが、ボランティアベースでの勤務状況の中で、スタッフはどこまで責任を負うのか」といった疑問もあがっていた。
- ・ その他、具体的な事例も含め、学校や教育委員会、つくしの広場、ここに広場との間で成果や課題を共有し、振り返る機会が必要だという声が、内外から多数寄せられていた。

* 学校との連携、協働の詳細に関しては、「事業の実施概況（4）所属学校等との連携」を参照

* 保護者との連携、協働の詳細に関しては、「事業の実施概況（5）保護者との連携」を参照

【事業の実施概況】

- ・ 2022年4月1日より2023年3月31日までに、不登校児童生徒を対象とした支援教室「おすびつくば」を月・火・木・金曜日の週4日、延べ155日開級した。2023年3月の時点で入所者数は35名、体験通所中の児童生徒は1名となった。
- ・ 延べ登所者数は1,656名。本人や保護者と相談の上で半日から少しずつ慣れていけるようにしていること、学校や他の施設と併用している子もいること、完全に登校を再開した場合もしくはその籍を残すようにしていることなどから、1日あたりの登所者数は10.7名/日となった。
- ・ 室内を「学びのスペース」と「フリースペース」とに分けて、10:00～15:00を開所時間とした。
- ・ スタッフの勤務時間（パートタイムを除く）は9:00～16:30、毎朝夕に清掃や消毒作業、ミーティングをもって情報共有と振り返り、学習の記録を入力する作業などを行った。
- ・ 保護者会への了承を得て活動応援費を徴収し、学校連携コーディネーター等への謝金や学習用PCな

どの備品費、遠足時のバス代に充てるなどした。

- ・ スタッフの研修会を繰り返しもった。
- ・ 水曜日には臨床発達心理師による教育相談、保護者同士が思いを語り合うなどする場としての「親の会」をもつなどした。
- ・ 学校連携コーディネーターを迎え、通所者すべての在籍校を訪問し、学校との連携を図った。
- ・ 保護者会を計5回もった。第三者の目から、客観的な活動評価をいただくための運営協議会も計4回実施した。
- ・ この間、把握しているだけで30件を超える問い合わせ(うち見学は22件)が寄せられた。また、体験通所*を希望し、待機している児童生徒が2023年3月の時点で12名(小学生8名・中学生4名)いる。

* 体験通所：まずは週に半日から、入所を希望する児童生徒と受け入れる側の児童生徒の双方が、無理なく環境に慣れ、親しめるようにするための期間

(1) 学習支援活動について

- ・ 学習スペースでは、午前中に40分×3コマの授業時間を設けた。読み書き、特に書くことの困難などLD (Learning Disorders / Learning Differences) 傾向が見られる児童生徒も複数在籍したことから、一人ひとりの得意や不得意も考慮しながら、それぞれのニーズに応じた教材を用意し、スタッフ1名に対して児童生徒1～3名ほどで学びを支えた。
- ・ 考えや意見を出し合い、共有することでお互いをより良く知る機会として、サークルタイムを実施した。特別プログラムでは、外部講師を招いて「防災に関する講座」と「交通安全に関する講座」を行うなどした他、農作業体験、霞ヶ浦でのカヌー体験なども行った。

(2) フリースペースでの活動について

- ・ フリースペースでは、各々がそれぞれのペースでゆっくりと過ごすうちに、少しずつ緊張が解け笑顔がひろがる様子が見られた。
- ・ 自由参加の「〇〇の時間(遊び勉強の時間)」を設けて、遊びの中でさまざまな興味や関心を引き出すことにも努めた。
- ・ 信頼関係の醸成に努めながら、フリースペースにはボードゲームやあるカタカナ語をカタカナ語を使わずに説明するカードゲームを置くなどして、子ども同士の自然なコミュニケーションが生まれるように努めた。また簡易トランポリンやバランスボードを置くことでストレスを発散できるようにした。

(3) 体験活動について

- ・ 昨年に引き続きカヌー体験、筑波山登山を実施した。
- ・ 新たにじゃがいもの収穫など土に触れる機会をもった他、つくばエキスポセンターの協力を得て「アルコールロケットを飛ばそう」「太陽を観察しよう」の科学体験教室も実施した。

(4) 所属学校等との連携

- ・ 所属学校には、毎月、出席日数や生活の様子、学習状況等を文書で報告した。学校にも登校している場合は特に、電話での情報共有などにも努めた。
- ・ おすびつくばの教育相談を担当している穂積妙子氏(つくば子どもと教育センター代表、臨床発

達心理士)を学校連携コーディネーターとして向かい入れ、学校担当スタッフ3名とともに学校連携強化に努めた。

- ・ 夏休みまでに所属学校全てを担当のスタッフ1名と学校連携コーディネーターが訪問し、各学校の担当者と対面で情報交換をした。
- ・ 学校によっては管理職の訪問、管理職と担当者の訪問もあった。
- ・ 学校にも登校している児童生徒については、児童生徒の状況を共有し、支援目標や方法についても話し合った。
- ・ 退所した児童生徒はその都度学校にその旨を電話で報告した。また、体験をはじめた児童生徒、入所になった児童生徒もその都度おすびつくばでの様子を伝え、さらに秋に入所になった生徒の所属校を学校連携コーディネーターとともに訪問した。
- ・ 毎月1回、学校担当スタッフ3名と学校連携コーディネーターとの会議を持ち、現在の状況の情報共有を行うとともに、次への課題に対する検討を行なった。
- ・ つくしの広場職員2名がおすびつくばに来所し、おすびつくばの両方を利用する児童生徒について情報を共有するなどした。

(5) 保護者との連携

- ・ 保護者にも所属学校と同様に、毎月、出席日数や生活の様子、学習状況等を文書で報告した。また、夏期、冬期、年度末に、個別面談をもった。
- ・ 電話やメール等、送り迎えの際などにも、具体的なエピソードを通して子ども達の様子を伝え、成長を共有できるよう努めた。
- ・ ピア・カウンセリングを兼ねた「親の会」を計11回開催した。保護者の率直な声を伝えていただけるように おすびつくばスタッフ は立ち会わず、運営は つくば子どもと教育相談センター に依頼した。
- ・ 「つながる縁日」への出展準備や当日サポート、保護者会の運営準備サポート等 保護者に参加協力してもらう機会を多くもつようにした。

(6) 地域の団体との連携

- ・ 筑波大学と協働し、「教育インターンシップ実践演習」として6名の学生を2日間ずつ受け入れたほか、NPO 法人ドットジェイピーによるインターンシッププログラムでも、筑波大学から1名の学生を3か月間受け入れた。
- ・ 教育相談では臨床発達心理師や公認心理師、親の会では つくば子どもと教育相談センターの協力を得た。
- ・ NPO 法人Next one. (スポーツ)、NPO 法人つくばアグリチャレンジ (農業体験)、エキスポセンター (科学講座)、つくば警察署 (安全教室)、つくばセルフ防災ラボ 橘敦子氏 (防災講座)らの協力を得た。

(7) スタッフ研修の充実

○ 外部講座への参加

- ① ICT 活用×社会モデルー合理的配慮を「社会モデル」で理解するーオンライン講座
講師：学びプラネット合同会社代表 平林ルミ氏、
東京大学バリアフリー教育開発研究センター 飯野由里子氏
- ② こどものミカタ養成講座実行委員会主催 「“こどものミカタ” 養成講座第4シーズン」

- ③ ゲーム障害の基本と治療の実際 オンライン講座
講師：茨城県立こころの医療センター精神保健指定医 小松崎智恵氏
- ④ ICT による読み書きサポート入門ー子どもの読み書きサポートをする大人に知っておいてほしい基礎知識 オンライン講座 講師：学びプラネット合同会社代表 平林ルミ氏
- ⑤ 日本版 WISC-V9 理解と活用 主催：臨床発達心理士会 茨城支部
- ⑥ ピットインカードオンライン体験会 主催：一般社団法人日本親子コーチング協会
- ⑦ 英語の文字指導 handwriting 指導法 オンラインセミナー初級
- ⑧ 国語ファシリテーション 主催：株式会社ひとまち
- ⑨ 地域未来創造カイギ ～コミュニティ・スクール設置率 100%！ 特別支援学校のコミュニティ・スクール実践事例から考える教育の未来～ オンライン講座
主催：NPO 法人 教員支援ネットワーク T-KNIT
- ⑩ 池袋児童の村小中学校と子どもたちの軌跡 講師：門脇厚司氏
- ⑪ 社会力講演会 ～子どもを中心としたこれからの学校教育とは？～ 講師：門脇厚司氏
- ⑫ 「夢みる小学校」上映会&木村泰子さんと考える「これからの学校」
主催：NPO 法人 トモニトウ
- ⑬ 川崎こどもゆめパークの実践を知る「ゆめパのじかん」上映会+重江監督トーク

○ 講師を招聘しての内部研修

- ① 「命を守る原則」を知り、むすびつくばの災害対策を考える
講師：つくばセルフ防災ラボ 橘敦子氏
- ② 個別支援計画の概要と立て方を学ぶ
講師：つくば子どもと教育相談センター代表 穂積妙子氏
- ③ サークルタイム(話し合い活動)を体験し、進め方を学ぶ
講師：ユニベルシタスつくば(「つくば市民大学」運営団体)代表幹事 徳田太郎 氏
- ④ 「ICT 活用×合理的配慮」-合理的配慮を『社会モデル』で理解する
講師：学びプラネット合同会社代表 平林ルミ氏
- ⑤ さすまた講習 講師：つくば警察署生活安全課
- ⑥ こどもを「見る」～こどものミカタ養成講座ハイライト版～ オンライン講座
講師：こどものミカタ養成講座実行委員会(委員長 大六一志氏)

《スタッフ一覧(2023年3月時点)》 *印は教員免許所持者

氏 名	経歴等	担当クラス
本山 裕子	元公立中学校教諭	数学 *
浅野 美歩	つくば市特別支援教育支援員	国語 *
北村 直子	元公立中学校講師	国語 *
松井 由佳	筑波大学第二学群人間学類教育学主専攻卒業	社会 *
佐々木 侑紀	二松学舎大学 国際政治経済学部卒業	社会 *
小野村 哲	元公立中学校教諭	英語 *
梅澤 亜希子	元公立中学校講師	英語 *
八畑 博子	つくば市理科支援員	理科 *

平石 哲	デザイナー	絵画造形
谷島 弘恵	元放課後児童支援員	絵画造形
大嶋 愛子	元公立保育園保育士	サークルタイム *
早見 恵一	元会社員	フリースペース
中村 怜奈	筑波大学情報学群知識情報・図書館学類 3年	読み聞かせ
大場 雅也	筑波大学 社会・国際学群 社会学類 4年	フリースペース
原嶋 彩子	特別支援学校 非常勤	研修 *

《外部講師》

氏 名	所 属	担当クラス
河田 萌	NPO 法人 Next.one	スポーツ教室

2. 研修会事業

2022 年度目標と成果

- 他団体と協働し、子育て支援に取り組む人を主対象に、「ライズ学園」「むすびつくば」での実践から得た学びを共有する講座を企画し、開催する。

【成果】

- ・ “こどものミカタ” 養成講座の企画開催に参画した。
- ・ 他自治体の教育委員会や全国のフリースクールネットワーク等、多くの視察依頼を受け入れ、読み書き困難に関する知見も共有した。

- Web サイト上で「英語の学び方・教え方」に関する情報を発信するとともに、児童生徒と支援者の両方に向けたオンライン講座を開催する。

【成果】

- ・ 支援者向けの講座「英語指導の What & How」を企画し、「①アルファベット練習法」「②単語力アップのポイント」「③聞く力・読む力を伸ばす」の3種類を、タイムフリー（動画）講座とオンライン講座のセットで提供した。述べ 60 名の参加があった。
- ・ 子ども向けの講座「得意を伸ばして、苦手をふせぐ 英語のまなび方」を企画し、「①アルファベット練習法」「②単語力アップのポイント入門編」「③単語力アップのポイント初級編」「④聞く力・読む力を伸ばす」の4種類をオンライン講座で提供した。述べ 15 名の参加があった。

3. 学校・地域教育活動支援事業

2022 年度目標と成果

- 科学や芸術、スポーツなど一人ひとりの興味、関心にそった学びと体験の場、すべての子どもたちがその子なりの育ちを尊重される「サード・プレイス（第3の場）」としての「むすび場事業」に注力する。（日本財団助成事業）

【成果】

- ・ 日本財団助成金事業の一環で、2023 年 3 月までにのべ 185 講座を開催、小中高生のべ 826 名（保護者、上記のイベントへの参加者は含まず）の参加があった。「自信を取り戻した」「学校に足を向け始めた」など、参加した児童生徒や保護者からは高評価を得ることができた。講師からは、不登校とされる子を身近に感じられたなどの声もあった。
- ・ 本事業についてのホームページを開設し、SNS 等で講座の様子も紹介し、興味を持ってもらえるよう努めた。
- ・ 活動報告はホームページ以外に冊子にまとめ、希望者への配付を開始した。

- 地域での実践に生かせるよう部活動の地域化や各地における不登校児童生徒支援対策、オルタナティブ教育にまつわる動き、教育分野における官民の協働事例などについて情報を収集する。

【成果】

- ・ 様々な分野の方とのコミュニケーション、研修機会を利用して情報の収集に努めた。

4. 教材開発・教材販売事業

2022 年度目標と成果

- 「2023 年英単語カレンダー」と関連コンテンツを作成するとともに、「ひらがなれんしゅうちょう」を改訂、「小学生向け英単語カレンダー」を新たに出版する。

【成果】

- ・ 小学生向け英単語カレンダーとして「はじめての えいたんご カレンダー」を開発した。利用希望校を募集し、2022 年度中には 13 箇所、126 枚のカレンダーを寄附した。PDF ファイルの無料公開、また、付属教材の開発・配信も行っている。
- ・ 「ひらがなれんしゅうちょう」の大幅改訂は見送り、微細改訂の再印刷にとどまった。

- 英語科を中心に、映像教材を作成、配信する。

【成果】

- ・ 読み書き困難の疑似体験講座、支援者向けのタイムフリー講座「はじめてのえいたんごカレンダー」英単語の解説動画を作成、配信した。

【事業の実施概況】

○ 教材販売事業

- ・ 2022 年度英単語カレンダーおよび単語タイピングコンテンツを作成し、生活クラブ東京、生活クラブ千葉、生活クラブ茨城、パルシステム茨城 栃木では、寄附付き商品として取り扱いいただいた。
- ・ 「RISE 英語罫線ノート」について、中学校から注文が相次ぎ、再印刷を行った。また、印刷費の高騰に伴い、学校納入価格を見直した。

5. その他の活動

2022 年度目標と成果

- 定期的に活動成果を発信するなどして、新規会員の獲得に努めるとともに、情報発信の充実により、会員の継続率向上に努める。

【成果】

- ・ 会費納入システム導入、寄附ページ更新に着手した。
- ・ 2022 年度は WEB 記事を全 81 回 配信（6.75 回/月）し、定期的な情報発信に努めた。また、新たな SNS アカウント（Instagram）を取得し、様々な層に情報が届くよう工夫した。
- ・ 毎月実施されているイオン黄色いレシートキャンペーンは、新型コロナウイルスの影響で店頭活動が中止となったが、当法人のボックスに投函されたレシートの総額の 1%、36,300 円を寄附いただくことができた。

- 独自教材の普及と活動への理解を目的としたクラウドファンディングを実施する。

【成果】

- ・ 「はじめての えいたんご カレンダー」開発にかかる資金をクラウドファンディングで募り、120 名の方から 総額 530,200 円の支援を得た。プロジェクトの定期的な活動報告を通じて、独自教材の普及や活動への理解も促進できるよう努めた。

【講演活動等】

- ・ 筑波大学 教育学類教育インターンシップ 基礎論（オンライン）
- ・ 東海村立村松幼稚園 保護者 PTA 講演会